

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200117		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホーム東山しょうぶ苑		
所在地	福島県会津若松市千石町5-8		
自己評価作成日	平成30年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成31年1月8日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員で新たに考えた理念「地域の一員として生活していけるよう支援し、笑顔あふられる居心地の良い居場所づくりに努めます。明るい挨拶と助け合いの心でチームワークを大切に職場作りを目指します。」をモットーに、苑内でのサロン開催や地域行事への積極的な参加により地域とのつながりを大切にし、民生委員や区長等にも協力頂いている。又、職員一人ひとりの特性を生かし、チームワークを大切にしながら、利用者様の個々のニーズやご家族の要望に柔軟に対応できるよう努めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地区公民館が毎月開催するカフェや医療機関のカフェに毎回参加し、事業所主催のサロンを季節ごとに開催している。小学生の見学に事業所を開放するなど地域住民との交流を積極的に図り、認知症理解に取り組んでいる。設立10年を機に事業所理念を職員全員で作直し、利用者サービスの向上について意見を交換、共有化を図っている。不安を抱える利用者に対応策を出し合い、共同で取り組むなど職員間の連携を発揮している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で話し合い、新たな理念を掲げて実践につなげるよう努めている。	設立10年ということもあり、職員全員で理念を見直しし、ホールに掲示するとともに職員会議や申し送り時に毎回確認、共有を図っている。その際、支援の意義と一人ひとりの役割を確認し、職員同士がチームワークよくサポートしあうことで実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や文化祭、敬老会はもちろん、月2回開催されている地域のひがしカフェ等にもできる限り参加し、地域の一員として生活していけるよう支援している。	地区公民館や医療機関のカフェに参加するだけでなく、事業所でもサロンを開催して地域住民と交流し、介護の現状や認知症理解に努めている。語り部や手遊び、歌などのボランティアや小学生の事業所見学、慰問などを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、キャラバン・メイト養成研修を修了している。今後機会があれば包括支援センターの方と協力して、キャラバン・メイトとして地域に貢献していきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、苑での状況を報告している。そこで出されて意見や助言を参考に実践につなげている。	以前、大雨で床上浸水しそうになり、消防車の出動を受けたものの吸水場所の確保に困難を極めたことがあり、今後に備えて吸水枘の設置を提案され、すぐに造成するなど意見を活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	転倒事故等あった際には、速やかに報告、相談し実情やケアサービスの取り組みを伝えている。	市高齢福祉課には事業所の現状について報告、相談は密に行っている。地震被害状況は電話で報告し、利用者が転倒した場合は具体的対応策も含めて文書で報告している。市主催の各種講習会には積極的に参加し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回、法人の研修に出席し事業所内で伝達している。又、今年度より3か月ごとに事業所内で、身体拘束廃止委員会を開催し、話し合いの場を設けている。	管理者、職員は法人主催の研修会に参加し、事業所内で伝達講習を行い、身体拘束をしないケアへの取り組みを実施している。基本的には利用者を目上の先輩として敬い、言葉遣いに注意しながらよりよい接遇で対応できるケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修に出席し、事業所内で伝達している。又、職員同士のコミュニケーションを良好にすることで、ストレスを溜めない職場づくりに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者様がいるので、支援に努めるとともに、パンフレットを事業所内に掲示するなど、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に必ず内容の説明を十分に行い、不安や疑問点等伺うようにしている。及び、契約書等は事前にご家族に渡し、納得、理解した上で締結するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりや会話の中から思いや要望を引き出し、運営に反映できるよう心がけている。ご家族については、面会時やモニタリングの際に意見や要望を伺ったり、何気ない会話の中から気が付いた点については、職員間で共有し運営に反映できるよう努めている。	事業所は湯上がりに牛乳の提供をしていたが、本人が好きなコーラを提供して欲しいと家族より要望があり、ジュースを含めて選択できるよう切り替えた事例がある。入浴介助では同性対応に限定するなど家族意見を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や日々のミーティングの時に、職員の気付きや困っていること、意見や提案等話し合い、運営や利用者一人ひとりのより良いケアに反映している。	管理者は、毎月の職員会議や日々の活動の中で職員から意見や提案を聞いている。エアコン作動を嫌う利用者の場合、就寝してから行うなど職員意見を活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課の実施やストレスチェックを行い、職員個々の努力や実践、勤務能力の評価を行い、向上心を持てる環境づくりに努めている。また、年1度、職員へアンケートを行い、要望等を話しやすい環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で内部研修を定期的に計画し、各部署より職員1名以上参加できる仕組みになっている。研修内容は各部署に持ち帰り伝達研修を行ないスキルアップに繋げている。外部研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内小規模施設の管理者会議を開催し、場所を変えながら各施設を見学し参考にしたり、管理者同士の交流を図りながら情報交換をしている。その中で、困難事例等について、相談、検討し、サービスの質の向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、担当介護支援専門員等から入居前の状況や状態を伺い、サービス内容に反映できるようにしている。又、本人の表情、動作に目を配り、耳を傾けたりと少しの変化や思いに気づき対応できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み段階や実態調査、契約時等にこれまでの介護の経過やご苦労を伺い、現在困っていること、不安なこと、要望等を傾聴し、今後の援助に反映できるよう話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込みの相談を受けた段階で、本人やご家族の状況や状態を確認し、どのような支援やサービスが必要か見極め、他のサービスや施設等を紹介することも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの特徴や特性を引き出し、得意とするもの、興味のあることを役割として協力いただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化時等、常にご家族に報告、相談することで情報を共有し協力をいただけるよう働きかけている。また、行事等への参加も積極的に呼びかけ利用者様との時間を楽しくして頂けるよう工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所等を会話の中から引きだし、ご家族の協力を得ながら足を運べるようきっかけ作りに努めている。	友人の訪問時には居室や炬燵のある和室に案内し、お茶を提供するなどゆっくりすごせるように支援し、帰りには玄関まで見送り、再訪をお願いしている。美容室の利用、墓参りや外泊、外食も家族対応を主に、困難な場合は事業所で支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの状態を把握し談笑しやすい環境づくりに努めている。カウンター席についても考慮し、利用者様同士支え合い、お世話をして下さる姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や状態変化等により退居された後も、次の施設の紹介や申込み代行、及びその施設等への情報提供の支援や相談を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング以外にも普段の生活の会話の中から希望や意向を聴きだし職員間で共有している。又、困難な場合にもその方の立場に立ち寄り添う介護に努めている。	お茶の時間など日常生活の中での会話から具体的な要望を把握するように務めている。言葉に出来ない人には簡単な質問をしながら、利用者が何をしたいのかを推測し、家族とも相談して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前よりご家族や担当介護支援職員、利用されているサービス事業所等から情報を頂きながら、これまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握することでその方の有する力等の発見に努め、職員間で共有し、その方の居場所作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングではもちろん、ご家族面会時等に、何か変化があれば報告させて頂き、常に情報交換を行っている。又、日頃の変化にも早期に気づき、より良く暮らす為のケアのあり方を検討し、介護計画に取り入れている。	入所時に利用者、家族を実態調査し、不明点をケアマネージャーや利用していた介護事業所から聞きとり、計画を作成している。試行1ヶ月程度で家族と協議して変更点を決めている。血圧の管理や心のケアなど必要に応じて訪問看護や医師の意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り、職員会議等の他にも、日頃から日々の気づきや問題点、改善点等について話し合い、申し送りノート等で即日に関係者に共有し介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族の状況の把握に努め、突発的な事に関しては職員同士で話し合いサービス内容を変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	苑でのサロンの開催や、外部のサロンやカフェへの参加、地域の文化祭へ作品の出品など地域の行事へも積極的に参加し、生きがいと張りのある暮らしが出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	人居前より、本人及びご家族の希望を優先し、状態・状況によっては相談をしながらその方に合った治療が受けられるよう考慮している。病状によって医療機関と連携を図り、訪問看護師とも相談しながらより良い生活が送れるよう配慮している。受診結果は、職員間はもちろん、ご家族とも共有している。	従前のかかりつけ医の継続を基本に、受診は基本的に家族対応にて行われているが、家族と相談して、必要に応じて事業所で対応もしている。受診結果は家族に報告し、内容を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用し、状態報告、相談し指示を受けている。緊急時や職員では判断がつきにくい場合等には、24時間対応で訪問看護師の指示を受ける事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、苑での状態の申し送りや介護サマリーの活用により安心した治療が受けられるよう支援している。又、状態変化や退院時にはカンファレンスを要望し医師やケースワーカー、家族と連携を取りながら、退院後にも安心して生活が出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制及び重度化・看取りに関する指針を定めている。契約時に、重度化についての対応の説明し、その都度相談、検討が必要になってくることも説明している。状態変化の際には、ご家族に報告、意向を確認しながら相談している。	契約時に事業所が出来ることと出来ないことを説明している。利用者が水分や食事が取れないなど医療行為が必要な場合は入院を原則に、重度化した場合はその都度、家族と今後について方針を協議している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルや応急手当のテキストを目につくところに掲示している。普通救命講習を定期的を受けている。又、救急要請時の為に利用者様一人ひとりの既往歴や服薬情報の一覧表を電話の近くに置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回程度の防災訓練(さまざまな災害を想定)を実施し、又地域の民生委員や町内会長等に災害時の応援要請が出来る体制を整えている。	具体的な火元を想定しての避難訓練など毎月実施している。水害で床浸水の場合の避難場所はベッドの上など具体的想定で実施している。備蓄については非常食等3日分を確保して賞味期限を考慮して入れ替えを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や経験、知識を傾聴しつつ、人格や誇りを傷つけることのないよう、言葉かけや対応には充分配慮し、馴れ合わない事も心掛けている。	名前はさん付けで言葉かけを行っている。利用者はお客様として、です、まず言葉を心がけ、しましょうか、行きましょうかなど動作をうながす言葉で対応している。居室にも、入らせていただきます、と声掛けして入室し、戸締まりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で体調や表情に配慮し、声かけ、本人の希望や思いに耳を傾け希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、その日の体調を見ながら声かけを行い、希望に沿って過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時はもちろん汚れた時には着替えを行い、常に清潔な身だしなみに気を付けている。季節、気温に合った洋服を着用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調を考慮しながら食器の片付け等を行って頂いている。又、季節感を考慮しながら年間の食事を提供し楽しんで頂けるよう努めている。	メニューは旬の食材を使用し、利用者の希望を取り入れながら1週間前に作成している。誕生日には利用者の希望するメニューを、花見では公園におにぎりや惣菜を持参、会津まつりでは弁当食を提供するなど楽しい食事を取れるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	継続して食事量・水分量を毎食毎に記録し、摂取量が少ない場合には申し送り等により補給出来るよう工夫し、体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、見守り、介助により一人ひとりの能力に合わせた支援を行っている。用具についても定期的に消毒し清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの能力に合わせた支援を行い、時間を見計らっての声かけや誘導見守り等、出来る限りの自立支援に努めている。	自立にむけて最小限の手助けを行い、本人ができる限りのことを引き出して支援している。チェックシートにより様子をうかがいながら、排泄の先読みすることで失敗しないよう方法を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	継続して朝食時には黒米を使用し、入浴後には牛乳を飲んで頂いている。毎日欠かさず野菜や果物を取り入れたメニューの工夫やラジオ体操等を行い便秘予防に努めている。便秘薬使用の方については、排便の間隔を把握し薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は毎日入浴できるよう準備している。一人ひとりの状態やその日の希望により個々の支援に努めている。しょうぶ湯やゆず湯等も楽しんで頂いている。	毎日入浴できる支援を行っている。入浴できない場合は清拭で対応して下着を交換するなど、清潔の保持を心がけている。近場にある足湯にも時々出かけて楽しんでいる。入浴剤は利用者ごとに好みがあるので、希望のものを準備して使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やペースを把握し体調に合わせて声かけをし休息して頂いる。又、夜間の状態の申し送りに応じて、日中・夜間と安眠の支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば申し送り、申し送りノートを活用し職員全員が把握し情報を共有している。又、利用者の状態の変化に気付き見逃さないように気を配っている。薬剤師の方とも相談しやすい関係を築いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や掃除・洗濯物干し等一人ひとりの出来る事、興味のあること、得意とする事を発見し活かすことで日々楽しく生きがいや、やりがいを持った暮らしが出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事、地域での行事にも積極的に参加し、天気の良い日には散歩など出来る限り戸外へ出る機会を設けている。又、本人の意向によりお墓参りの支援や外出・外泊等家族への協力も得ながら行っている。	天気のよい日は散歩に出掛けている。近所には周囲を花壇で飾り立てている住宅が多く、花々を鑑賞ながら散歩を楽しんでいる。通院時にも売店で御菓子や洋服、日用品などの買い物を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、本人のお金の所持は行わず、施設管理とし必要に応じて本人と買い物に出掛けたり希望の物を購入することで安心して頂いている。所持しないと不穏になる方は、居室に所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が遠方の方や、なかなか面会に出来ない方については、年に数回ではあるが職員からの提案で電話で話していただく様支援している。電話がしたい、手紙を書きたいと希望があれば、いつでも対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には、月々の行事の写真や利用者様の作品を展示、共用の空間には、団子さしやお雛様、七夕飾り、クリスマスツリー等を飾る事で季節感を感じられるよう工夫している。苑内に温度計、湿度計を置いて確認を行い、表情等を見ながら快適に過ごせるよう配慮している。	壁には利用者手づくりの貼り絵や書道作品、行事時の写真が季節感を表現して展示されている。利用者の健康に配慮して冬は22度、夏は28度に室温を維持し、湿度も季節に合った設定で、居心地の良い空間作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には炬燵、ホールにはソファスペース、台所にはカウンターを設置しており、一人ひとりが好きな場所で、思い思いに自由に過ごせる様にしている。又利用者様同士で楽しくおしゃべりしたり、支え合ったりする姿が見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	落ち着いて生活が出来るよう、居室には利用者様の思い思いの物や使い慣れた物を置いて頂いている。仏壇を持参されている方もいる。	利用者は居室に家族の写真や位牌、仏壇を持ち込み、自分がなじめる部屋づくりをしている。また、好みのぬいぐるみやテレビも持ち込んでその人なりの生活が楽しめるよう居心地の良い居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内は全てバリアフリーになっており、安全に移動が出来る。トイレは目印をつけ、居室を間違いない方のドアには名前を表示し分かるようにしている。玄関にはベンチを置き、靴の脱ぎ履きがしやすいようにしている。居室の掃除も柄の長いモップを使用することで、安全に行えている。		